

めざせ「いきいき 明治っ子」

～ はきはき どんどん ぐんぐん ～

～ 子どもの発達と家庭教育 ～

読書の効果とメディアの弊害

1学期の学校評価の結果が出ましたが、読書とメディアについて少し気になる結果となりました。これを機会に、みんなでじっくり考えてみたいと思います。

本を読むという行為は、決して情報を得たいというためにやるわけではなくて、むしろ『自分の中からどのくらい引き出せるか』という営みであるといわれています。そして、読書をしているときの私たちの脳は、ほかの活動をしているときとは違う特徴があるといえます。

例えば、雪国の場면을テレビで見ているときを考えてみましょう。

映像は視覚をつかさどる部分で、ナレーションなどの音声は言葉をつかさどる部分で捉え、脳の前方にある部分に伝達することで、場面の意味を理解します。テレビは次々と場面が変わるため、脳は入ってくる情報の意味を理解することに追われます。

一方の読書をしているときはどうでしょうか。

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。」という一節を読むとき、まずは言葉を視覚で捉え、次にその意味を理解しようとします。このとき脳は、どんな景色なのか、主人公はどんな人なのか、イメージを補おうと視覚をつかさどる部分が動きだします。すると、過去に見た風景などの記憶をもとに想像を膨らませ、場面のイメージが脳の中にできあがります。読書による、こうした一連のサイクルが、想像力を養うことにつながると考えられています。

つまり、読書をしないでメディアによる情報ばかりに偏ってしまうと、想像する力が弱くなってしまうのです。

東京大学大学院総合文化研究科の酒井邦嘉教授によりますと、「読書とは、言葉を理解することだけではなくて、視覚的に映像を頭の中に想起するとか、過去の自分の体験と照らし合わせて対比して考えるとか、自分で得られた情報から更に自分で自分の考えを構築するというプロセスが入ってくる、人間の持っている創造的な能力がフルに生かされる活動なのです。」

このように、読書は私たちの様々な能力を高めてくれます。

さらに、思考力を鍛えるためには、本を読むプロセスの中で、その次のステージとして、アウトプット、つまり何かをまとめて書いたり人に話したりすることが大切です。読書感想文がそのいい例です。読書で得た知識や感動を自分の言葉にして人に伝えることで、私たちの思考力や表現力が高まっていきます。

秋の夜長に、メディアを消して、みんなでじっくりと読書をしてみませんか。



「よろしくお願ひします」 明治小学校に、新たにALTが着任しました。

氏名 Cara McInerney (カラ マキネーニ)

1学期までお勤めいただいたペニー先生に代わって、2学期から新しいALTのカラ先生が着任しました。

9月5日より勤務していただいています。オーストラリア出身で、とても明るく楽しい先生です。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



力作揃いの 自由研究発表会

夏休みにじっくりと時間をかけて取り組んだ自由研究の校内発表会を行いました。各学年で全員が発表した中から選ばれた代表が、低学年、中学年、高学年に別れて発表し合いました。学年の発達段階に応じた素晴らしい発表に、うなずいたり、感動したり、質問したりして、成果を深め合うことができました。発表した人も、それを真剣に聞いていた人も、どちらも素晴らしい明治っ子でした。このあと学校代表を職員で選考し、9月25日(水)の市科学研究発表会に備えます。



親善陸上大会に向けて

夏休みの後半から始まった陸上競技の練習が盛んに行われています。4日(水)には、市親善陸上大会が行われる高田公園陸上競技場に行って練習してきました。今年も保護者の内山さんから指導していただくなど、充実した練習ができています。昨年を上回る成績が収められるようみんなで心をひとつにして頑張ります。

また、ぐんぐんタイムでは、校内マラソン大会に向けての取組も始まり、全校児童が一生懸命汗を流しています。家に帰ってからも家族ぐるみでマラソンの練習をしているという児童もいて、頼もしい限りです。大会本番での子どもたちの活躍にご期待ください。

